

平成24年度 決算状況		人口 22年国調 17年国調 増減率	面積 22年国調 17年国調 増減率	区分 住民基本台帳人口 うち日本人	産業構造			都道府県名 08 茨城県	団体名 4476 河内町	市町村類型 地方交付税種地	- 1			
					区分	22年国調	17年国調							
		10,172人	10,959人	-7.2%	25.3.31	10,063人	9,968人							
		44.32km ²	230人	-1.4%	24.3.31	10,206人	10,206人							
											2-4			
歳入の状況 (単位千円・%)														
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	市町村税の状況 (単位千円・%)			指定団体等の指定状況						
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	一般職員	うち消防職員	うち技能労務員	教育公務員	臨時職員	等
地方税	917,859	20.5	917,859	31.2	普通税	917,859	100.0	-	旧新産	×				
地方譲与税	105,725	2.4	105,725	3.6	法定普通税	917,859	100.0	-	旧工特	×				
利子割交付金	2,053	0.0	2,053	0.1	市町村民税	411,504	44.8	-	低開発	×				
配当割交付金	1,666	0.0	1,666	0.1	個人均等割	15,108	1.6	-	旧産炭	×				
株式等譲渡所得割交付金	431	0.0	431	0.0	所得割	342,928	37.4	-	山振	×				
地方消費税交付金	81,043	1.8	81,043	2.8	法人均等割	16,275	1.8	-	過疎	×				
ゴルフ場利用税交付金	18,744	0.4	18,744	0.6	法人税割	37,193	4.1	-	首都	×				
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	422,380	46.0	-	近畿	×				
自動車取得税交付金	27,462	0.6	27,462	0.9	うち純固定資産税	422,367	46.0	-	中部	×				
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	25,794	2.8	-	財政健全化等	×				
地方特例交付金	2,177	0.0	2,177	0.1	市町村たばこ税	58,181	6.3	-	指数表選定	×				
地方交付税	1,806,634	40.4	1,633,467	55.6	鉱産税	-	-	-	財源超過	×				
普通交付税	1,633,467	36.5	1,633,467	55.6	特別土地保有税	-	-	-						
特別交付税	101,770	2.3	-	-	法定外普通税	-	-	-						
震災復興特別交付税	71,397	1.6	-	-	目的税	-	-	-						
(一般財源計)	2,963,794	66.2	2,790,627	94.9	法定目的税	-	-	-						
交通安全対策特別交付金	1,222	0.0	1,222	0.0	入湯税	-	-	-						
分担金・負担金	3,748	0.1	-	-	事業所税	-	-	-						
使用料	37,697	0.8	3,398	0.1	都市計画税	-	-	-						
手数料	10,867	0.2	-	-	水利地益税等	-	-	-						
国庫支出金	274,249	6.1	-	-	法定外目的税	-	-	-						
国庫提供交付金	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-						
都道府県支出金	236,503	5.3	-	-	合計	917,859	100.0	-						
財産収入	974	0.0	146	0.0										
寄附金	869	0.0	-	-										
繰入金	78,526	1.8	-	-										
繰越金	246,148	5.5	-	-										
繰上収入	282,888	6.3	144,603	4.9										
地方債	339,000	7.6	-	-										
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-										
うち臨時財政対策債	210,000	4.7	-	-										
歳入合計	4,476,485	100.0	2,939,996	100.0										
性質別歳出の状況 (単位千円・%)														
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率	区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち 普通建設事業費	(A)の 充当一般財源等	区分			
人件費	1,021,107	24.5	979,801	977,761	31.0	議会費	94,527	2.3	7,277	94,527	基準財政収入額	902,803	952,242	
うち職員給	618,312	14.9	582,829	-	-	総務費	760,513	18.3	129,159	624,575	基準財政需要額	2,536,270	2,571,536	
扶助費	376,759	9.1	155,158	154,375	4.9	民生費	1,097,359	26.4	18,407	760,015	標準税収入額等	1,130,658	1,192,290	
公債費	257,638	6.2	254,879	254,879	8.1	衛生費	399,552	9.6	10,617	373,204	標準財政規模	2,980,310	3,031,960	
元金	213,015	5.1	210,256	210,256	6.7	労働費	16,365	0.4	-	611	財政力指数	0.37	0.39	
元利	44,623	1.1	44,623	44,623	1.4	農林水産業費	154,051	3.7	5,345	140,957	実質収支比率(%)	10.1	7.3	
一時借入金	-	-	-	-	-	商工費	8,648	0.2	-	8,061	公債費負担比率(%)	7.0	7.0	
(義務的経費計)	1,655,504	39.8	1,389,838	1,387,015	44.0	土木費	722,787	17.4	390,804	491,807	健全化判断比率	-	-	
物件費	546,078	13.1	425,260	400,402	12.7	消防費	205,569	4.9	10,170	191,702	連結実質赤字比率(%)	-	-	
維持補修費	17,488	0.4	17,488	17,488	0.6	教育費	400,557	9.6	21,327	352,865	実質公債費比率(%)	11.6	13.0	
補助費等	686,235	16.5	647,340	568,287	18.0	災害復旧費	44,696	1.1	-	44,495	将来負担比率(%)	77.2	78.7	
うち一部事務組合負担金	425,780	10.2	425,780	381,184	12.1	公債費	257,638	6.2	-	254,879	積立金	242,673	262,598	
繰出金	613,960	14.8	566,189	555,783	17.6	諸支出費	-	-	-	-	現在高	113,716	123,666	
積立金	192	0.0	-	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-	特定目的	565,383	608,792	
投資・出資金・貸付金	5,003	0.1	5,003	5,003	0.2	歳出合計	4,162,262	100.0	593,106	3,337,698	地方債現在高	3,036,683	2,910,698	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-						(債務負担行為額)	-	-	
投資的経費	637,802	15.3	286,580	286,580	9.9	経常経費充当一般財源等計	2,933,978千円				物件等購入	-	-	
うち人件費	-	-	-	-	-	公営事業等への繰上	233,938				保証・補償	-	-	
普通建設事業費	593,106	14.2	242,085	242,085	9.9	下水道	26,003				その他	140,989	183,792	
うち補助	265,993	6.4	7,980	7,980	0.3	上水道	-				実質的なもの	-	-	
うち単独	327,113	7.9	234,105	234,105	9.9	工業用水道	-				収益事業収入	-	-	
災害復旧事業費	44,696	1.1	44,495	44,495	1.1	交通	-				土地開発基金現在高	70,000	70,000	
失業対策事業費	-	-	-	-	-	国民健康保険	80,973				徴収率(%)	96.8	89.3	
歳出合計	4,162,262	100.0	3,337,698	3,649,581千円	99.8%	その他	299,049				現計	96.9	90.8	
											純固定資産税	96.4	86.9	

(注) 1. 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうち補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうち単独事業費を含む。
2. 東京都特別区における基準財政収入額及び基準財政需要額は、特別区財政調整交付金の算出に要した値であり、財政力指数は、前記の基準財政需要額及び基準財政収入額により算出した。
3. 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
4. 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。